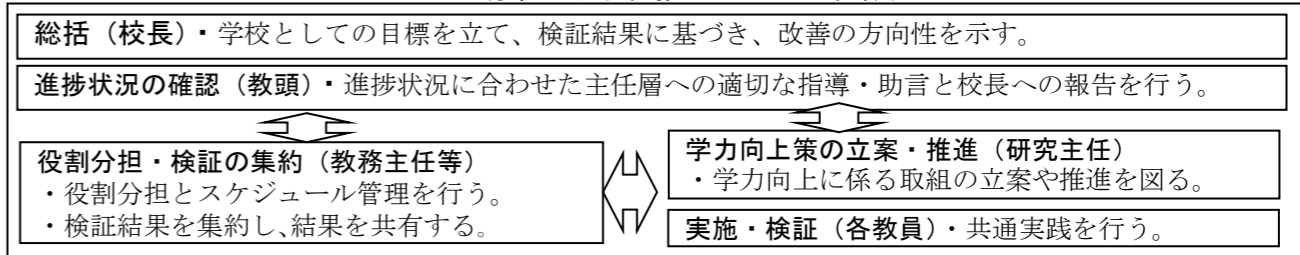


研究主題 学び合う子をめざして

副題 主体的・対話的で深い学びに迫るための手立ての追求

効果的な取組推進のための組織図



	学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証		
					児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況			
授業で行う取組	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 「聴く」「話す」ことに課題がある。 授業で、「根拠をもとに考えることができた」児童は93%だった。 全国、県の学力調査、12月の評価問題から漢字を書く力や、記述式の問題で字数に気をつけてまとめる力が弱い。 学校全体の3学期のテストで根拠を問う問題の正答率は、国語87.5%、算数75.0%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律への指導差がある。 理由や根拠が言える児童の発言に頼ってしまうところがあった。 書く力をつけるために、主述語を正しく使った文の書き方や、条件作文の練習をしているが、まだ定着していない。 	<ol style="list-style-type: none"> 「大野町スタイル」を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> 全学級が、「準備、聴く、話す、書く」を意識して、授業を進める。 理由や根拠が言えるように「深めの発問」を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> 既習と比べる 根拠を問う 具体的に問う 他の方法を問う 	方法	<ol style="list-style-type: none"> 児童アンケート「根拠をつけて話す」で確認する。 説明文の単元末テスト(7月)で「根拠を問う問題」の正答率を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート「深めの発問を工夫することができたか」 		
					指標	<ol style="list-style-type: none"> 「当てはまる」の割合80%以上 正答率の割合80%以上 	肯定的評価90%		
					結果				
	二学期					方法			
						指標			
						結果			
	三学期					方法			
						指標			
						結果			
授業以外で行う取組		<ul style="list-style-type: none"> 全国、県の学力調査、12月の評価問題から記述式の問題で、字数に気をつけてまとめる力が弱い。 漢字だけ書けても、文章の内容から漢字を考えて書く力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度の短作文の取り組みによって、書くことに意欲は持てるようになったが、文章を書くことにまだ慣れていない。 漢字は、繰り返し練習する回数が少なかった。 漢字を単語で練習することが多かったので、文章の中でどう使われているかを知る必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 全学年で短作文に取り組む <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して短作文のテーマを決め、見通しを持たせる 書く型を示し、それにあてはめて書くことから始める。 お昼の放送でよい文章のクラス代表一人を決めて発表する。 全学年で漢字テスト20問テストに取り組む <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、水曜日の朝学習に実施する。テストに向けて練習期間を設ける。 漢字の採点基準を確認し、共通理解する。 パーフェクトだった児童を全校朝会で表彰して意欲づけとする。 	方法	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回全学年共通のテーマで短作文を書く。 月に1回全学年で漢字20問テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート「短作文の書き方を指導したか」「漢字テストに向けて指導し、練習期間を設けたか」 	1学期の検証	
					指標	平均80点以上	肯定的評価90%		
					結果	1学期の結果	1学期の結果	2学期の検証	
						2学期の結果	2学期の結果		